

道徳通信

2020/10/12

No.7

東中筋中学校

「相互理解、寛容」について

九月は、全学年で「相互理解、寛容」の授業を行いまして。この項目は、

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があつたことを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

という内容です。前号に引き続き、二年生と三年生の授業を紹介します。

三年生の授業より「山寺のびわの実」

【あらすじ】荷車引きの甚太は、村人から慕われている山寺の和尚のことがどうしても好きになれません。甚太は三年前、一人娘のとめを亡くしてからというもの気性を荒げ、村人からも避けられるようになりました。ある日、托鉢（たくはつ）をしている和尚が甚太の行く手をふさいだことに気付き謝るのですが、甚太は通り過ぎながら和尚を突き飛ばし怪我を負わせます。その夜偶然、和尚が、甚太が優しい人と言っていること、今日は甚太に悪いことをしたと言っていたこと、けがは自分どころだと言っていること、娘のとめをとんでもかわいがっていたこと、などを知ります。そして……。



授業では、「他者から学ぶ」ということを中心に考えました。

Q なぜ和尚は甚太に対して「大きな心をもつ」ことができたのだろう。

- * 自分が悪いと思っていたから。
- * 自分に何かしらの原因があるかもしれないから。
- * 必ず人にはいいところがあると思っっているから。



- * 甚太のことを思っているから。
- * 甚太の辛い気持ちがあつたから。
- * 甚太が本当は優しい人、いい人だと知っていたから。

ここでは、「自分を振り返ること」「人間のもつ良さを信じること」「相手の気持ちやおかれた立場や状況を考えること」などが相手を受け止める時のポイントだと考えました。



Q 授業を終えて考えたこと

- * 人の心は、いろいろな出来事で変わるけど、大きな心をもつ人がいることで、かわれることがあつた。
- * 和尚の大きな心がとても素晴らしいなと思つた。人だから嫌などころはあるだろうけど、それを大きな心で受け止めることがとても大事なんだなと思つた。
- * 嫌いな人もいるけど、相手にもよいところがあるのだから、しっかりとめたいと思つた。
- * 苦手な人に対して大きな心をもって接することで相手も優しくしてくれたり、相手のいいところもたくさん見つけるんだなと思つた。
- * 気に入らない、話が合わないという人は、自分は受け止められることもあるけど、たまに無理なこともある。でも基本相手のことだけ聞かなくていいし、自分の意見も言うわけだから、自分は大丈夫。



二年生の授業より

「野生の猛禽を守るために」

【あらすじ】筆者は、野生生物保護センターに勤める獣医師です。その地域では、多くのワシが命を落としました。それは、増えすぎたシカの駆除に使われている鉛の銃弾を肉といっしょに食べたため、鉛中毒になったからです。そのことに危機感を抱いた筆者は鉛弾の使用をやめるように訴えるのですが、ハンターたちから強烈な反発を受け、いつしかハンターたちを敵視するようになっていきます。しかし、自分の講演会に来たハンターと話したことから、敵味方に分かれず話をし続けることの大切さに気付いていきます。



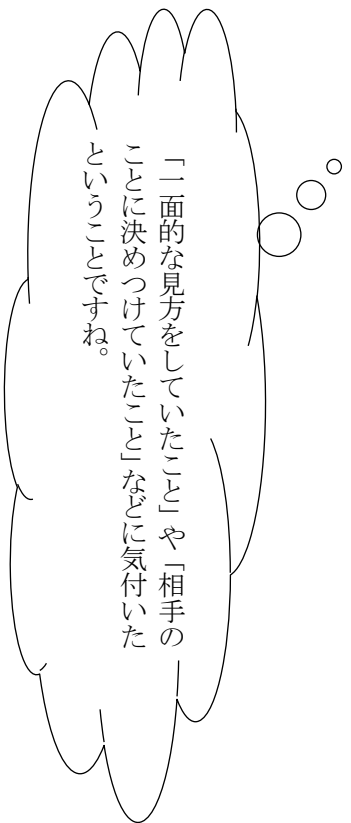
授業では、「立場の違う人同士がお互いに理解し合う」ということを中心に考えました。

Q 「一人のハンターとの出会い」「目からうつつが落ちたよんな思い」をした筆者はどのよんな「よん」に気付いたのだろうか。

- *ハンターを違った目で見ていたこと。
- *中にはいい人もおる。
- *ちゃんと分かっているハンターもいた。
- *森の環境や他の動物たちのことも考えてくれているハンターもいる。



- *ハンターは皆悪いわけじゃなくて、ちゃんとワシのことも考えてやってくれるいい人もいるんだと思った。
- *ハンターは本来自然を愛好する人たちなのに、違った目で見ていてしまった。



「一面的な見方をしていたこと」や「相手のことに決めつけていたこと」などに気付いたということですね。

Q お互いに理解し合ったために大切だと思つたよんはどのよんか。

- *相手を理解しようと思わずに悪く言わないで、相手の立場に立っていっしょに考える。
- *相手のことを思つて話すことは大切だと思つた。

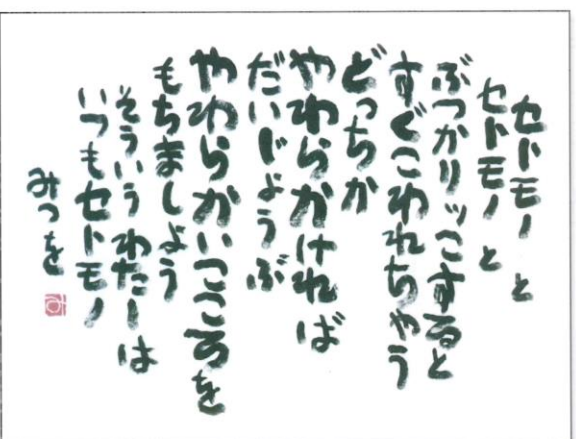


- *一方的に悪いイメージをもつのではなく、お互いのことを理解する。
- *自分の意見ばかり言うんじゃないで、相手を理解する。

- *理解し合うには一度相手の気持ちになり、何が本当に正しいのか、大切なのかを考えることが必要だとは分かっているが、それはとても難しい。



今回の授業では、コミュニケーションをとるとき相互理解（一年生）、立場が違う人との相互理解（二年生）、相手に対する寛容な心や謙虚な心（三年生）について学習しました。中学生の皆さんは、これからも、様々な人と関わりながら学校生活や家庭生活、社会生活を送ります。自分の考えや意見を相手に伝えることや、相手の考えを理解しようとする姿勢をもつことが、自分の視野を広げたり、成長につながったりすることを実感してほしいと思います。



《1年生 道徳ノート P20 より》



平成三〇年度、令和二年度高知県教育委員会指定

「道徳教育推進拠点校事業」研究発表会 及び 第二回道徳参観日のご案内

平成三〇年から取り組んできました指定事業の研究発表会を、十一月二十七日（金）に行います。午後からの日程で、「研究発表」「公開授業」「研究協議」「全体会」という内容です。当日の**公開授業**は、第二回の**道徳参観日**を兼ねています。平日ではありますが、三年間の道徳科の授業研究の成果や、春からの生徒の成長の様子をご覧いただけると幸いです。公開授業の教材は、

- ◎一年生 「銀色のシャープペンシル」（よりよく生きる喜び）
- ◎二年生 「一冊のノート」（家族愛、家庭生活の充実）
- ◎三年生 「ベビーカー論争」（遵法精神、公德心）

です。詳しい日程等につきましては、改めてご案内いたします。